【第三種郵便物認可】

地域発 世界へ

向陽技研 背もたれの角度調整用金具

故障知らず シェア世界一

座椅子やソファの背もたれを「カチャカチャ」と動かすと、ちょうど良い角度に固定できる。この角度調整用の金具「ラチェットギア」を開発したのが向陽技研（堺市、山下雅伸社長）だ。市場占有率は国内で80%、海外でも65%と世界トップを保つ。

ラチェットギアの販売の7割が輸出だ。中国やドイツなど30カ国以上に出荷。地域別にみると4割がアジアで3割が欧州、米国が1割を占める。中国とドイツに全額出資の販売会社を持っており、ドイツのケルンで開かれる家具部品の国際展示会に毎回出展。知名度を高めて販路の開拓に取り組んでいる。

角度調整金具はコンパクトさと耐久性の両立が難しい

向陽技研　1902年創業。74年から座椅子用の角度調整金具の製造・販売を手がける。88年に輸出を始め、2006年に中国工場を開設。14年に経済産業省の「グローバルニッチトップ企業100選」に選ばれた。15年7月期の売上高は約21億円。従業員は国内70人、中国 140人。

一見するとシンプルな構造の部品。割安な中国製などの追い上げが激しいと思われるが、山下社長は「意外に難易度が高い」と話す。サイズをコンパクトにしながら耐久性と両立するのが難しいという。角度は最大42段階まで調整できる。固定するため爪を引っ掛ける段差は目を凝らさないと見えないほど小さい。この部分に人間の体重が勢いよく掛かると一般的な鋼材ではすぐに欠けてしまう。

そこで「段差部分に特殊な金属加工を施し強度を上げている」（久保田理也業務統括部長）。本社を構える堺市は中世に国際交易港として栄え、鉄砲や刃物をつくる職人や技術が育った。現在も堺市周辺には金属加工メーカーが多く、独自のノウハウを蓄積する。

低い不良品率も強みだ。角度金具が壊れると買ったばかりの高級ソファも使えなくなる。ブランドの信頼性を重視する欧州の家具メーカーは「他社より高値でも『KOYOパーツ』を指名する」（山下社長）。

高いシェアは量産効果も生む。年間1千万個以上を省力化を進めた本社工場で集中生産するため、中国製とのコストの差は小さい。軽量化や静音につながる特許も約60件保有する。このため新規参入する競合はほとんどいないが「実はそれが悩みのタネでもある」という。

巨大地震など有事に備えて事業継続計画を立てる企業が増えた。家具部品も2社以上からの購買を原則とするメーカーが多い。ただ、角度金具は向陽技研が圧倒的なシェアを持つ。同社の工場が万一止まると、代替調達先が乏しい点を取引先から指摘されるという。将来は本社工場以外にも国内に生産拠点を設けることも必要となりそうだ。

今後、角度金具に次ぐ第2の柱と期待するのが、机や食卓の高さを簡単に上下できる「昇降金具」。机などの高さが合わないと、特に車椅子で生活している人には使いにくい。福祉施設や高齢者がいる家庭向けのテーブルへの普及をめざす。

（堺支局長　小島基秀）